費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	一般	334,790,162	①費用進行基準を採用した業務：期間進行基準を採用した業務以外の全ての業務 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額： 一般勘定　386,095,269 労災勘定　110,096,042 雇用勘定　1,708,064,858 計　2,204,256,169 ・一般勘定：（人件費：313,466,570、外部委託費：9,025,886、雑給：19,156,143、諸謝金：12,823,044、図書印刷費：8,130,096、消耗品費：1,126,798、賃借料：2,241,579、保守料：773,892、通信費：904,775、旅費交通費：8,502,816、水道光熱費：3,079,880、修繕費：1,368,846、租税公課：2,078,399、減価償却費：177,369、雑損：1,469,551、その他：1,769,625） ・労災勘定：（人件費：44,394,903、雑給：7,509,887、諸謝金：6,513,780、図書印刷費：2,870,062、通信費：900,456、賃借料：624,750、水道光熱費：16,319,977、消耗品費：2,721,846、修繕費：1,863,414、租税公課：4,514,876、外部委託費：19,763,443、旅費交通費：1,305,676、減価償却費：727,224、その他：65,748） ・雇用勘定：（人件費：880,156,698、外部委託費：226,386,212、雑給：218,125,616、諸謝金：61,445,353、図書印刷費：57,564,865、消耗品費：59,749,193、賃借料：39,996,786、保守料：11,060,132、通信費：16,359,568、旅費交通費：18,126,892、水道光熱費：26,006,723、修繕費：23,810,535、租税公課：24,393,725、減価償却費：25,936,425、財務費用：54,486、その他：18,891,649） イ）自己収入に係る収益計上額： 一般勘定　51,064,889 労災勘定　236,789 雇用勘定　5,563,370 計　56,865,048 ・一般勘定：（業務収入：48,061,539、財務収益（受取利息）：1,886,074、雑益：1,117,276） ・労災勘定：（財務収益（受取利息）：100,972、雑益：135,817） ・雇用勘定：（業務収入（受取賃借料）：16,546、財務収益（受取利息）：2,076,927、雑益：3,469,897） ウ）固定資産の取得額： 一般勘定　4,645,400 労災勘定　155,400 雇用勘定　13,113,780 計　17,914,580 ・一般勘定：（建物：4,645,400）
		労災	109,132,029	
		雇用	1,676,899,793	
		小計	2,120,821,984	
	資産見返運営費交付金	一般	4,645,400	
		労災	155,400	
		雇用	12,813,780	
		小計	17,614,580	
	資本剰余金	一般	△ 8,210	
		労災	0	
		雇用	300,000	
		小計	291,790	
	計		2,138,728,354	

				・労災勘定：（工具器具備品：155,400） ・雇用勘定：（工具器具備品：12,813,780、敷金：300,000） ③運営費交付金の振替額の積算根拠 一般勘定　339,427,352 労災勘定　109,287,429 雇用勘定　1,690,013,573 計　2,138,728,354 ・一般勘定：（費用386,095,269＋資産取得4,645,400＋固定資産除却損34,418）－自己収入51,064,889－資産見返負債戻入189,636－貯蔵品85,000－リサイクル預託金8,210＝339,427,352 ・労災勘定：（費用110,096,042＋資産取得155,400）－自己収入236,789－資産見返負債戻入727,224＝109,287,429 ・雇用勘定：（費用1,708,064,858＋資産取得13,113,780＋固定資産除却損7,912,292）－自己収入5,563,370－資産見返負債戻入33,135,333－貯蔵品364,810－リース取引影響額13,844＝1,690,013,573 運営費交付金収入から自己収入で充当した経費相当額を除いた額を運営費交付金収益に計上することとしている。
会計基準第81第３項による振替額			0	第２期中期目標期間四年度目であることから、独立行政法人会計基準第81第３項の規定に該当せず。
合　計			2,309,454,354	

⑶　運営費交付金債務残高の明細

交付年度	運営費交付金債務残高			残高の発生理由及び収益化等の計画
		勘定	金額	
平成19年度	業務達成基準を採用した業務に係る分		0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	期間進行基準を採用した業務に係る分		0	－（期間進行基準を採用した業務は無い）
	費用進行基準を採用した業務に係る分	一般	44,009,870	○費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、人件費の削減等、一般競争入札の積極的導入による入札差額の発生、事業の効率化等による経費の削減に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回り、翌事業年度に繰り越したもの。 （注：運営費交付金の収益化については、自己収入を優先的に充てることとする。）なお、中期計画で予定した、本事業年度に実施すべき業務については、計画どおりに実施済みであり、業務の未達成による運営費交付金債務の翌年度への繰越額はない。
		労災	22,838,370	
		雇用	231,698,849	
		小計	298,547,089	
	計		298,547,089	